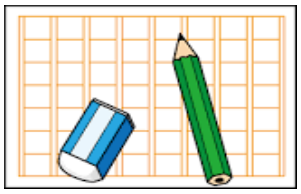
はばたき　TEA　TIME

今月は、保護者の方との面談の中で話題に出てきた「文章を書くことを苦手としている子」への支援について紹介します。

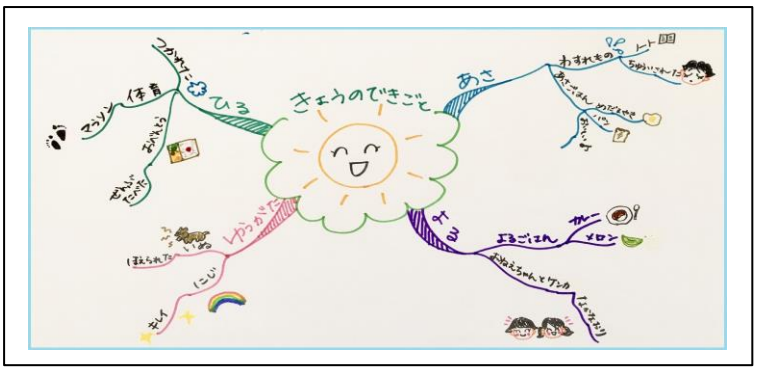
学校では板書をノートに写したり、新聞にまとめたり、日記や発表原稿を書いたりと、学年が上がるにつれて、文章で表すことが多くなっていきます。文章を書くことを苦手としている子は、そのような学習場面で困ることが多くなってしまいます。

文章を書くことが苦手な児童Ａ君（架空児童）のケース



つまずき①やったことを思い出せない。
（支援方法）
・写真や絵、ビデオを使って、手掛かりとなる言葉を引き出しながら、書いていく。

つまずき②語彙力や表現力が不足している。
（支援方法）
・気持ちを表す言葉（うれしい、悲しい、はずかしいなど）を増やしていく。
・マインドマップで思いや考えを表現して書いていく。



つまずき③テーマを決められなかったり、何を書いてよいのか分からなかったりする。
（支援方法）
・4W1H（いつ、どこ、だれ、何をした、どんな気持ち）に沿ってインタビュー形式で聞きながら、手掛かりとなる言葉を引き出して書いていく。
・子供とやりとりしたことを大人がメモをしていき、子供がそれを基にして書いていく。

メモ

・運動会ではダンスを頑張った。

（参考文献：　特別支援教育サポート辞典　合同出版）

文章を書くことに対する苦手意識を克服して、少しずつ自信をもって書けるように支援しています。